

事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人 コミュニティクラブ 埼玉

事業名	高齢期・終末期サポート事業	
助成事業の種類	SDGs 推進事業・人間分野	
1. 事業の目的	<p>高齢期以降の課題は、認知機能・身体機能の低下による生活障がいや単身世帯の増加等により生活に不安を抱えることです。</p> <p>自分たちが長年住み慣れた場所を離れることなく、たすけあいながら「最期まで地域の中で自分らしく生きる」ためには、老後のさまざまな不安や手続きを自身が事前に準備することが必要です。これらを具体的に行うことができる仕組みづくりを目的としています</p>	
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	<p>運営理念でもある「住まいで暮らしを支える」は相互扶助による支え合いが重要と考えます。不足する資源の開発と担い手の養成を進めながらお互いさまのたすけあいを地域に展開していく、新しい協働の働きかた（自分ができる所は働き、できないところは他の人の働きで助けてもらう）によって地域社会に役立つ非営利・共同の市民事業を創り出していきます。</p>	
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	・講座事業（参加人数 149人）	
	時期	内容
	7月12日	<p>講座「リビングウィル・人生会議～最後の選択」</p> <p>「賢い患者」岩波新書の著者から、病気の自覚、自分の受けたい医療を考えること、思いの言語化、一人で悩まないことなど実例を交えてお話しを伺いました。</p> <p>【講師】</p> <p>認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 山口育子氏 参加者：20名 運営会議・広報活動</p>
8月23日	<p>講座 ワークショップ「死の体験旅行」</p> <p>自分にとって大切なものは何か。それがどんなに大切でも死ぬときには手放すことになる。人は終末期にはどんな気持ちになるのか。死の疑似体験をしました。</p> <p>【ファシリテーター】</p> <p>倶生山慈陽院なごみ庵 住職 浦上哲也氏 参加者：20名</p>	

		運営会議・広報活動
9月10日	講座「遺言書の書き方」 遺言とは何か。遺言はどのような人に必要なのか、遺言でできること、できないことはどんなことなのか。事例を含めて、最近の民法の改正内容を含めて学びました。 【講師】 司法書士法人大久保事務所 司法書士 大久保啓介氏 参加者：13名 運営会議・広報活動	
10月29日	「海洋散骨体験クルーズ」 海洋散骨はどのように行われるのか、体験してみました。実際に小型船に乗って東京湾に出て、模擬散骨の体験をしました。 【講師】 ㈱ハウスボートクラブ ブルーオーシャンセレモニー 参加者：20名	
11月19日	講座「成年後見制度(法定後見・任意後見)」 判断力が衰えても、その人の権利を守り支えてくれる制度があります。成年後見制度もその一つです。実際にどんな制度なのか、利用するとよいのはどんな人か、費用や手続きについても、一緒に学びました 【講師】 よこた社会福祉士事務所・社会福祉士 横田 勉氏 参加者：21名 運営会議・広報活動	
12月17日	講座「地域の葬儀の実情」 地域や風習により葬儀は様々なかたちがあり、近年ではコロナ禍によりまた変化しつつあります。改めて葬儀とはなか、葬儀にかかる費用や葬儀社との契約のポイント、近年の葬儀事情についてお話を聞き考えました。 【講師】 株式会社ティア 関東支社 関東事業本部 エリアマネージャー 藤井 敬介氏 参加者：10名 運営会議・広報活動	
1月14日	講座「死後事務委任の実際」	

		<p>死後には葬儀・埋葬その他さまざまな手続きがありますが、それを生前に予め契約しておく制度です。主な契約内容やかかる費用、遺言書との違い等、実際の事例を交えて学びました。</p> <p>講師：吉村行政書士事務所 代表 吉村信一氏 参加者：27名 運営会議・広報活動</p>
	<p>2月11日</p>	<p>講座「家族信託」 将来自分の資産を管理できなくなった場合に備えて前もって信頼できる家族に託し、管理・処分を任せる方法を学びました。</p> <p>講師：かしのき総合法務事務所 代表 柏原昌之氏 参加者：18名 運営会議・広報活動</p>
<p>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>広報実績について 講座内容のチラシ作成（500部）・チラシ配布（草加市社会福祉協議会・狭山市社会福祉協議会・草加市、狭山市内の介護事業所・コミュニティケアクラブ埼玉の各介護事業所の利用者・生活クラブ組合員）・インスタグラム・掲載・生活クラブ広報誌掲載</p> <p>・講座を催すことで、参加者の老いに関する不安や課題解決に貢献しながら地域住民へさまざまな制度を知る機会を提供し活用できました。立ち上げた想いや経緯を含め私たちの事業を理解し、協力してくれる人々と繋がりができました。</p>	
<p>5. 費用面での工夫</p>	<p>・講師の方に講座趣旨の理解を得て、講師料を低価格若しくは無料をお願いできました。</p> <p>・参加申込者にきめ細かく対応しキャンセルが出ないようにしました。</p>	
<p>6. 地域社会への還元について</p>	<p>・講座を催すことで、参加者の老いに関する不安や課題解決に貢献しながら地域住民へさまざまな制度を知る機会を提供し活用できるように周知できました。また、元気なうちから備えることの大切さ、自分の思いを言葉にし、周囲に理解を求める必要があることなど老後のさまざまな不安や手続きを自身が事前に準備することが重要であることの理解が得られました。</p>	
<p>7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか</p>	<p>・来年度以降も引き続き講座を行い、今後は、どうすれば自分たちが長年住み慣れた場所を離れることなく地域の中で育んできた人間関係を保ち、たすけあいながら「最期まで地域の中で自分らしく生きる」ための具体的な方法を一緒に考え、老後のさまざまな不安や手続きを自身が事前に準備できるよう、地域に役立つ非営利・共同の市民事業を創り出していきます。</p>	